

Commemorative Concert of the 46th Suntory Music Award

Junichi Hirokami & Kyoto Symphony Orchestra

第46回サントリー音楽賞受賞記念コンサート

広上淳一と

Junichi Hirokami

京都市交響楽団

Kyoto Symphony Orchestra

武満 徹

フロム・ミー・フローズ・ホワット・ユー・コール・タイム

～5人の打楽器奏者とオーケストラのための～
打楽器：中山航介 宅間 齊 福山直子 大竹秀晃 高橋篤史

Foru Takemitsu: From me flows what you call Time

ラフマニノフ

交響曲第2番 ホ短調 作品27

Sergey Rakhmaninov: Symphony No. 2 in E Minor Op. 27

2017 9.18 [月・祝] 18:00開演 [17:30開場] サントリーホール 大ホール

[チケット料金] S=¥5,000 A=¥4,000 B=¥3,000 P=¥2,000

[チケット発売日] 一般発売:2017年5月29日(月)10時 サントリーホール・メンバーズ・クラブ 先行受付:5月22日(月)10時～5月26日(金)

◎サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017 ◎サントリーホール・メンバーズ・クラブWEB <http://suntoryhall.pia.jp/>

※サントリーホールは改修工事のため2017年2月6日～8月31日休館します。休館中、チケットセンターの営業日が変わります。

●月～金 10:00～18:00(土日祝は休業。ただし主催公演の発売初日は営業) ●チケット窓口は2017年2月1日～8月31日休業します。

◎チケットぴあ 0570-02-9999 [Pコード:317-473] ◎イープラス eplus.jp ◎ローソンチケット 0570-000-407 [Lコード:31695]

※出演者・曲目に変更がある場合がございますので、あらかじめご了承ください。※就学前のお子様の同伴・入場はご遠慮ください。



©伊藤菜々子

広上淳一と京都市交響楽団

Commemorative Concert of the 46th Suntory Music Award

Junichi Hirokami & Kyoto Symphony Orchestra

日本の洋楽発展にもっとも顕著な功績のあった個人または団体に贈られるサントリー音楽賞。第46回の受賞者は、広上淳一と京都市交響楽団。広上淳一氏が常任指揮者さらにミュージック・アドバイザーに就任以来、京響はめざましい躍進をとげ、昨年、創立60周年を迎え、これまで以上に大曲・難曲への挑戦を続けています。満を持して選んだ一夜限りの受賞記念のプログラムで、ますます充実する〈広上淳一と京都市交響楽団〉の今をお聴きください。



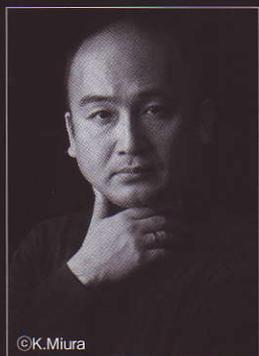
©伊藤菜々子



第46回(2014年度)サントリー音楽賞贈賞理由

広上淳一氏が常任指揮者に就任してからの京都市交響楽団は驚異的な能力の向上を遂げ、今や日本で屈指のオーケストラになったといっても過言ではない。定期演奏会が十回以上連続で売り切れを記録したことも、その何よりの証といえる。また同楽団は広上氏が指揮をしない公演においても、極めて高い水準の演奏を確実にこなす能力を持っている。(例えば2014年2月の秋山和慶指揮定期演奏会における『春の祭典』や3月の沼尻竜典指揮のびわ湖オペラにおけるコルンゴルト『死の都』)特筆すべきは、単なる個々のプレイヤーの技術的な上手さを超えて、一つのアンサンブルになったときの独自の「サウンド」の深みの感覚がある点である。また独奏パートだけでなく、

それを支える和弦や内声や副声部の一見したところ目立たないシンプルなフレーズが、ことごとく完璧に調和して「決まる」ことにも瞠目される。これらは今日なお日本のオーケストラではなかなか得難い資質である。昨今の演奏は「あたり」ぞろいであるが、わけても3月14日の第577回定期演奏会(ラフマニノフ:ピアノ協奏曲第二番、マーラー:交響曲第1番、アンコールにリヒャルト・シュトラウス『カプリッチョ』より「月光の音楽」)はNHKでも放映され、また東京サントリーホールでも同じ演目で公演が行われ、楽団の能力の高さを広く知らしめた。また5月24日の第579回定期演奏会(ベルリオーズ『ローマの謝肉祭』、プーランク『牝鹿』、ベルリオーズ『イタリアのハロルド』)で目も眩む極彩色の管弦楽を堪能させてくれた。以上の理由により2014年度音楽賞を〈広上淳一と京都市交響楽団〉に贈賞する。



©K.Miura

指揮：広上淳一

Junichi Hirokami, conductor

東京生まれ。東京音楽大学指揮科に学び、1984年「第1回キリル・コンドラシン国際青年指揮者コンクール」に優勝し、国際的な活動を開始。91～95年ノールショピング響首席指揮者、91～2000年日本フィル正指揮者、97～01年ロイヤル・リヴァプール・フィル首席客演指揮者、98～2000年リンブルク響首席指揮者、06～08年米国コロバス響音楽監督を歴任する傍ら、フランス国立管、コンサートヘボウ管、ウィーン響等に定期的に客演。オペラの分野でも国内外で活躍し、シドニー歌劇場、新国立劇場等へ客演。

13年「第32回藤堂音楽賞」、15年京響とともに「第46回サントリー音楽賞」受賞。東京音楽大学教授。京都市立芸術大学客員教授。08年4月から京都市交響楽団第12代常任指揮者、14年4月からは第12代常任指揮者兼ミュージック・アドバイザーに就任。

管弦楽：京都市交響楽団

Kyoto Symphony Orchestra

日本唯一の自治体直営オーケストラとして1956年創立。08年4月第12代常任指揮者に広上淳一が就任。14年4月から常任指揮者兼ミュージック・アドバイザーに広上淳一、常任首席客演指揮者に高関健、常任客演指揮者に下野竜也が就任。15年広上淳一とともに「第46回サントリー音楽賞」受賞。同年6月広上淳一指揮のもとヨーロッパ公演で成功を収め、16年は創立60周年記念国内ツアーと京都市内で「ふらっとコンサート」を開催し、平成28年度地域文化功労者表彰を受ける。17年4月からは下野竜也を常任首席客演指揮者に据えて広上・高関・下野による強靱な3人指揮者体制を確立し、文化芸術都市・京都にふさわしい「世界に誇れるオーケストラ」として更なる前進を図っている。

青少年をペアでご招待

この演奏会に小学生から25歳までの方とその同伴者1名を、ペアで計50組100名をご招待します。

●応募方法：芸術財団ホームページ <http://suntory.jp/sfamusic/> から応募用紙をダウンロードし、必要事項をご記入の上、右記までFAXを送信してください。

●募集期間：2017年6月1日(木)～7月31日(月)

●発表：当選者には2017年8月末までに、招待状を発送いたします。当日、会場で学生証など年齢のわかるものを提示いただき、座席券と引き換えます。

●送信先：サントリー芸術財団音楽事業部

FAX (03) 3582-1350 (24時間受付)

※FAX番号はお間違いないようご注意ください。